

特別プログラム

〔第1日 11月7日(木)〕

＜理事長・会長講演＞ 第1会場「コンベンションホールB」 15:00～16:00

「煌めく神経治療学の明日を目指して」

座長：平野 照之（杏林大学医学部脳卒中中医学）

演者：桑原 聡（千葉大学大学院医学研究院脳神経内科学）

＜特別企画シンポジウム1＞ 第1会場「コンベンションホールB」 9:00～11:00

「ATTRv アミロイドーシスの治療：産・官・学・患者会の立場から」

座長：関島 良樹（信州大学医学部脳神経内科，リウマチ・膠原病内科）

西村由希子（ASrid）

- (1) ステークホルダーが一堂に介して知識を共有する価値 — 中間機関の視点から
西村由希子（ASrid）
- (2) 遺伝性 ATTR アミロイドーシス診療の現状と課題
植田 光晴（熊本大学大学院生命科学研究部脳神経内科学）
- (3) 当事者が想うこと，望むこと，および今後の患者会活動について
黒田 直子（たんぽぽの会）
- (4) 患者会の歩みの紹介，および関係者連携の重要性
宮田 誠也（道しるべの会）
- (5) Evidence Based Advocacy：企業から見た患者視点の重要性
三浦 愛子（Alnylam Japan（株）メディカルアフェアーズ部ベイスェントアドボカシー & エンゲイジメント）
- (6) 難病対策の変遷と現状，および令和6年改訂の内容について
山田 洋輔（厚生労働省健康・生活衛生局難病対策課）

＜シンポジウム1＞ 第2会場「国際会議室」 9:00～11:00

「レカナマブ時代における認知症領域の新しい臨床開発のチャレンジ」

座長：和田 健二（川崎医科大学認知症学）

鈴木 啓介（国立長寿医療研究センター先端医療開発推進センター）

- (1) ドナマブの開発を通じたアミロイドをターゲットとしたアルツハイマー病治療薬開発の展望
片桐 秀晃（日本イーライリリー（株），研究開発・メディカルアフェアーズ統括本部）
- (2) 精神神経領域における音声バイオマーカーの開発
徳野 慎一（東京大学大学院工学系研究科バイオエンジニアリング専攻音声病態分析工学講座，
神奈川県立保健福祉大学ヘルスイノベーション研究科）
- (3) 認知症領域における血液バイオマーカー最前線
中村 昭範（国立長寿医療研究センターバイオマーカー開発研究部）
- (4) iPS細胞を用いた家族性アルツハイマー病の医師主導治験
坂野 晴彦（京都大学医学部附属病院先端医療研究開発機構，京都大学 iPS 細胞研究所／脳神経内科）

<シンポジウム 2> 第3会場「201」 9:00～11:00

「神経領域における臨床試験／臨床評価ガイドライン作成の取組み」

座長：和泉 唯信（徳島大学大学院歯薬学研究所臨床神経科学分野）

佐久嶋 研（北海道大学病院医療・ヘルスサイエンス研究開発機構）

- (1) 神経領域における臨床試験／臨床評価ガイドラインの意義・役割
中島 麗子（医薬品医療機器総合機構新薬審査第三部）
- (2) 神経領域における国内外の臨床試験／臨床評価ガイドライン
佐久嶋 研（北海道大学病院医療・ヘルスサイエンス研究開発機構）
- (3) 脳梗塞の細胞治療製品の開発に関するガイドラインについて
七戸 秀夫（北海道大学病院医療・ヘルスサイエンス研究開発機構臨床研究監視センター）
- (4) ALS 臨床試験のためのガイドライン作成
狩野 修（東邦大学医学部内科学講座神経内科学分野）

<シンポジウム 3> 第6会場「303」 9:00～11:00

「プリオン病の治験開始に向けて」

座長：三條 伸夫（東京科学大学大学院脳神経病態学分野（脳神経内科））

濱口 毅（金沢医科大学脳神経内科学）

- (1) プリオン病の臨床治験について
高尾 昌樹（国立精神・神経医療研究センター病院）
- (2) 治験を目的としたプリオン病の診断の問題点とバイオマーカーの活用
佐藤 克也（長崎大学・院医療科学専攻保健科学分野）
- (3) 末梢静脈投与可能なプリオン病特効薬の治験開始
桑田 一夫（くわたクリニック、岐阜大学大学院医学研究科消化器外科・小児外科、岐阜大学大学院
連合創薬医療情報研究科）
- (4) プリオン病の治療に必要なドラッグデリバリーシステム
桑原 宏哉（東京科学大学大学院脳神経病態学分野（脳神経内科））

<シンポジウム 4> 第1会場「コンベンションホール B」 16:10～18:10

「世界で増加する ALS 治験：日本のドラッグロス回避と今後の戦略を考える」

座長：青木 正志（東北大学大学院医学系研究科神経・感覚器病態学講座神経内科学分野）

熱田 直樹（愛知医科大学医学部内科学講座（神経内科））

- (1) ALS の国際間での連携
狩野 修（東邦大学医学部内科学講座神経内科学分野）
- (2) ALS 治験、治療開発にレジストリの果たす役割
熱田 直樹（愛知医科大学医学部内科学講座（神経内科））
- (3) ALS 治験のエンドポイントとバイオマーカー
藤田 浩司（徳島大学大学院歯薬学研究所臨床神経科学分野）
- (4) 医薬品開発を効率化する Complex Innovative Trial Designs
平川 晃弘（東京科学大学）
- (5) The development of tofersen for SOD1-ALS and lessons learned for future trial designs in ALS
Steve Garafalo (Neuromuscular Development Unit, Biogen)
- (6) 特別発言
Angela Genge (Department of Neurology, McGill University, Montreal, Canada)

<シンポジウム 5> 第2会場「国際会議室」 16:10～18:10

「アルツハイマー病診療の最前線 ～レカネマブ治療の現場から～」

座長：小野賢二郎（金沢大学医薬保健研究域医学系脳神経内科学）

富本 秀和（三重大学大学院医学系研究科／済生会明和病院）

- (1) レカネマブの治療効果をアミロイド仮説から紐解く
小野賢二郎（金沢大学医薬保健研究域脳神経内科学）
- (2) ARIA の病態と対応について
富本 秀和（済生会明和病院, 三重大学大学院医学研究科）
- (3) レカネマブ治療外来の診療フローについて
篠原もえ子（金沢大学医学系脳神経内科学）
- (4) 認知症診療におけるアミロイド PET の役割と課題
石井 賢二（東京都健康長寿医療センター）
- (5) 認知症診療における液性バイオマーカーの役割
池内 健（新潟大学脳研究所生命科学リソース研究センター）

<シンポジウム 6> 第3会場「201」 16:10～18:10

「パーキンソン病と関連疾患の治療法開発の現状と展望」

座長：武田 篤（国立病院機構仙台西多賀病院脳神経内科）

勝野 雅央（名古屋大学大学院医学系研究科神経内科学・臨床研究教育学）

- (1) パーキンソン病の病態抑止療法 update
長谷川隆文（仙台西多賀病院臨床研究部脳神経内科）
- (2) パーキンソン病の対症療法 update
前田 哲也（岩手医科大学脳神経内科・老年科）
- (3) PSP と CBS の病態抑止に必要なこと
金澤 雅人（新潟大学脳研究所脳神経内科学分野）
- (4) 多系統萎縮症の病態抑止治療 update
三井 純（東京大学医学部プレジジョンメディシン神経学）

<シンポジウム 7> 第6会場「303」 16:10～18:10

「稀少脳神経疾患の治験推進への課題」

座長：小野寺 理（新潟大学脳研究所脳神経内科）

中山 東城（東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科脳神経病態学分野）

- (1) 医療者の立場から考える希少神経難病に対する臨床試験の課題と解決策
中山 東城（東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科脳神経病態学分野, 東京医科歯科大学核酸・ペプチド創薬治療研究センター）
- (2) 希少神経難病に関する、治験の問題点と解決策 —PMDA の立場から—
朝倉 渡（医薬品医療機器総合機構新薬審査第三部）
- (3) 希少難病に関する創薬の課題と解決策 —製薬業界の立場から—
小泉一二三（日本製薬工業協会難病・希少疾患タスクフォース）
- (4) 稀少神経疾患治験に対する、DCT アプローチ
佐藤 裕（メディデータ・ソリューションズ（株））

<シンポジウム 8> 第7会場「304」 16:10～18:10

共催：日本東洋医学会

「神経疾患に対する東洋医学診療の現状と今後の展望 特に漢方と鍼灸の有効性とその科学的根拠」

座長：荒木 信夫（よみうりランド慶友病院）

山口 智（埼玉医科大学東洋医学科）

(1) 神経性疾患の東洋医学の総論

並木 隆雄（国際医療福祉大学成田病院）

(2) 漢方薬の基礎的研究～加味帰脾湯の研究より～

砂川 正隆（昭和大学医学部生理学講座生体制御学部門）

(3) 難治性神経疾患に対する東洋医学的治療（漢方薬・鍼灸）からのアプローチ

伊藤 剛（北里大学北里研究所病院漢方鍼灸治療センター）

(4) パーキンソン病など神経難病に対する鍼灸治療

江川 雅人（新潟医療福祉大学リハビリテーション学部鍼灸健康学科）

(5) 頭痛に対する鍼治療の効果と医師施術の意義

黒木 香行（桑名市総合医療センター脳神経外科）

(6) 脳神経内科より鍼治療の診療依頼があった頭痛患者について

井畑真太郎（埼玉医科大学東洋医学科）

<教育講演 1> 第4会場「301」 9:00～9:40

「大規模リアルワールドデータ：臨床研究のブルーオーシャン」

座長：桑原 基（近畿大学医学部脳神経内科）

演者：小西 孝明（東京大学大学院乳腺内分泌外科学，東京大学大学院臨床疫学経済学）

<教育講演 2> 第4会場「301」 9:40～10:20

「煌めく治験の未来～医師主導治験を成功に導く生物統計学の実践～」

座長：荻野美恵子（国際医療福祉大学医学部医学教育統括センター・脳神経内科学）

演者：佐藤 泰憲（慶應義塾大学医学部生物統計学）

<教育講演 3> 第4会場「301」 10:20～11:00

「新薬の薬価はどう決まる？」

座長：森 雅裕（千葉大学大学院医学研究院脳神経内科学）

演者：荻野美恵子（国際医療福祉大学医学部医学教育統括センター・脳神経内科学）

<教育講演 4> 第4会場「301」 16:10～16:50

「脳神経内科医が知っておきたいステロイドの使い方」

座長：作石かおり（帝京大学ちば総合医療センター脳神経内科）

演者：鶴沢 顕之（千葉大学大学院医学研究院脳神経内科学）

<教育講演 5> 第4会場「301」 16:50～17:30

「COVID-19 後遺症としての認知機能障害 ―その病態と対策―」

座長：中嶋 秀人（日本大学医学部神経内科）

演者：下畑 享良（岐阜大学大学院医学系研究科脳神経内科学分野）

<教育講演 6> 第4会場「301」 17:30～18:10

「臨床神経学の理解に必要な運動制御機構「姿勢と歩行」」

座長：高嶋 博（鹿児島大学脳神経内科）

演者：高草木 薫（旭川医科大学医学部生理学）

<マラソンレクチャー 1> 第5会場「302」 9:00～9:40

「自分流てんかんとは？」

座長：齊木 臣二（筑波大学脳神経内科）

演者：宇川 義一（福島県立医科大学学生体機能研究部門）

<マラソンレクチャー 2> 第5会場「302」 9:40～10:20

「パーキンソン病治療の長期計画」

座長：寒川 真（近畿大学脳神経内科）

演者：齊木 臣二（筑波大学医学医療系神経内科学）

<マラソンレクチャー 3> 第5会場「302」 10:20～11:00

「重症筋無力症の治療～update と近未来～」

座長：鶴沢 顕之（千葉大学大学院医学研究院脳神経内科学）

演者：寒川 真（近畿大学医学部脳神経内科）

<マラソンレクチャー 4> 第5会場「302」 16:10～16:50

「神経診断学を極める—自著症例報告を深掘りする—」

座長：金井 数明（福島県立医科大学医学部脳神経内科学講座）

演者：福武 敏夫（亀田メディカルセンター（脳神経センター）脳神経内科）

<マラソンレクチャー 5> 第5会場「302」 16:50～17:30

「診療に役立つ遺伝学的検査の基礎知識」

座長：田中 章景（横浜市立大学神経内科学・脳卒中医学）

演者：中村 勝哉（信州大学医学部附属病院遺伝子医療研究センター、信州大学医学部脳神経内科、リウマチ・膠原病内科）

<マラソンレクチャー 6> 第5会場「302」 17:30～18:10

「小児神経筋疾患患者の診察」

座長：林 由起子（東京医科大学病態生理学分野）

演者：石垣 景子（東京女子医科大学医学部小児科）

<神経治療学会 臨床研究ワークショップベーシック> 第8会場「103」 16:10～18:10

「臨床研究の基本知識習得と、ネットワーク作りを！」

ファシリテーター（予定）：鈴木 啓介（国立長寿医療研究センター）

橋詰 淳（名古屋大学大学院医学系研究科）

中村 治雅（国立精神・神経医療研究センター）

[第2日 11月8日(金)]

<特別講演1> 第1会場「コンベンションホールB」 13:30～14:30

[CURRENT CLINICAL TRIAL Designs in ALS: FROM SAD TO PIVOTAL PROGRAMS]

座長: 桑原 聡 (千葉大学大学院医学研究院脳神経内科学)

演者: Angela Genge (Department of Neurology, McGill University, Montreal, Canada)

<特別講演2> 第1会場「コンベンションホールB」 14:40～15:40

ASENT-JSNT Joint Lecture

[Drug Discovery to First in Human: Hurdles to Development]

座長: 佐久嶋 研 (北海道大学病院医療・ヘルスサイエンス研究開発機構)

藤原 一男 (福島県立医科大学多発性硬化症治療学講座)

演者: Nathan Fountain (The Thomas E. Worrell, Jr Professor of Neurology; Director, FE Dreifuss Comprehensive Epilepsy Program; University of Virginia, Charlottesville, Virginia, USA)

<特別企画シンポジウム2 (創薬推進委員会シンポジウム)>

第1会場「コンベンションホールB」 15:50～17:50

[臨床研究・治験のDXと組み入れ支援]

座長: 勝野 雅央 (名古屋大学大学院医学系研究科神経内科学・臨床研究教育学)

藤本 陽子 (ファイザー (株))

- (1) 臨床研究のDXに対するARO (Academic Research Organization) の取り組み
小早川優子 (九州大学病院 ARO 次世代医療センター, 九州大学大学院医学研究院神経内科学分野)
- (2) アルツハイマー病領域臨床試験におけるDCT活用
島山 直久 (日本イーライリリー (株) 研究開発・メディカルアフェアーズ統括本部)
- (3) 治験のDXに対する行政の取り組み
飯村 康夫 (厚生労働省医政局研究開発政策課)
- (4) 臨床研究・治験のDXと組み入れ支援 ～日本版の治験DX・プラットフォーム・AI・DCTの活用最前線～
猪川 崇輝 ((株) Buzzreach)
- (5) 神経治療学会による治験組み入れ支援
勝野 雅央 (名古屋大学大学院医学系研究科神経内科学)

<シンポジウム9> 第1会場「コンベンションホールB」 9:00～11:00

[日本の薬価制度: 未来を考えた適温は?]

座長: 三澤 園子 (千葉大学大学院医学研究院脳神経内科学)

松田 尚人 (バイオジェン・ジャパン (株) 研究開発本部)

- (1) くすりの費用対効果評価・価値評価
五十嵐 中 (東京大学大学院薬学系研究科医療政策・公衆衛生学)
- (2) 未来の最適化のために医薬品の値付けと保険償還 (日英その他の国)
吉田恵美子 ((株) Healthcare to All)
- (3) 日本の薬価制度: 未来を考えた適温は?
荻野美恵子 (国際医療福祉大学医学部医学教育統括センター・脳神経内科学)

- (4) 日本の薬価制度～グローバル製薬企業から見える課題
松田 尚人 (バイオジェン・ジャパン (株) 研究開発本部)

<シンポジウム 10> 第2会場「国際会議室」 9:00～11:00

「神経免疫疾患のレジストリ研究」

座長: 中島 一郎 (東北医科薬科大学医学部脳神経内科学)

河内 泉 (新潟大学大学院医歯学総合研究科医学教育センター・脳研究所脳神経内科)

- (1) 神経免疫疾患レジストリ構築の意義と挑戦: CIDPを事例として
大森 茂樹 (kizuna, 慶應義塾大学健康マネジメント研究所)
- (2) 視神経脊髄炎スペクトラム障害・MOG抗体関連疾患 (NMOSD・MOGAD) レジストリ
竹内 英之 (国際医療福祉大学大学院医学研究科脳神経内科学, 国際医療福祉大学熱海病院神経難病・
認知症センター, 横浜市立大学医学部神経内科学・脳卒中医学)
- (3) Japan MG Registryの目的と成果
楡沢 公明 (総合花巻病院脳神経内科)
- (4) 多発性硬化症のレジストリ研究の現在とこれから
磯部 紀子 (九州大学大学院医学研究院神経内科学)

<シンポジウム 11> 第3会場「201」 9:00～11:00

「パーキンソン病の device aided therapy」

座長: 平野 成樹 (千葉大学大学院医学研究院脳神経内科学)

前田 哲也 (岩手医科大学脳神経内科・老年科)

- (1) 各種デバイス療法の導入時期と適した患者像
樽野 陽亮 (医学研究所北野病院)
- (2) 進行期パーキンソン病に対するホスレポドパ・ホスカルピドパ持続皮下注療法の適応と実践
馬場 徹 (国立病院機構仙台西多賀病院脳神経内科)
- (3) 経腸療法 (LCIG) の適応と実践 (成功例と困難例)
橋本 祐二 (埼玉県総合リハビリテーションセンター脳神経内科)
- (4) 脳深部刺激療法の適応と実践 (成功例と困難例)
大山 彦光 (埼玉医科大学医学部脳神経内科・脳卒中内科)
- (5) パーキンソン病の device aided therapy
武田 篤 (国立病院機構仙台西多賀病院脳神経内科)

<シンポジウム 12> 第6会場「303」 9:00～11:00

「日本の ALS 治験, 治療開発のさらなる推進のために」

座長: 青木 正志 (東北大学大学院医学系研究科神経・感覚器病態学講座神経内科学分野)

漆谷 真 (滋賀医科大学内科学講座脳神経内科)

- (1) 日本の ALS 創薬の現状
漆谷 真 (滋賀医科大学内科学講座脳神経内科)
- (2) 今後の ALS 臨床試験を見据えた Patient and Public Involvement (PPI)
狩野 修 (東邦大学医学部内科学講座神経内科学分野)
- (3) 筋萎縮性側索硬化症に関する治験推進のための医療 DX・治験 DX
佐久嶋 研 (北海道大学病院医療・ヘルスサイエンス研究開発機構)
- (4) ALS 臨床評価ガイドライン作成の目的と概要
和泉 唯信 (徳島大学大学院歯薬学研究部臨床神経科学分野)

- (5) 遺伝子治療時代への対応 (家族性 ALS レジストリ J-FAST)
青木 正志 (東北大学大学院医学系研究科神経内科学)

<シンポジウム 13> 第7会場「304」 9:00～11:00

「新しい時代の自己免疫性小脳失調症の診断・治療」

- 座長：木村 暁夫 (岐阜大学大学院医学系研究科脳神経内科学分野)
矢口 裕章 (北海道大学大学院医学研究院神経病態学分野神経内科学教室)
- (1) 自己免疫性小脳失調症 overview
木村 暁夫 (岐阜大学大学院医学系研究科脳神経内科学分野)
 - (2) 自己免疫性小脳失調症の診断における免疫組織染色の有用性
竹腰 顕 (岐阜大学大学院医学系研究科脳神経内科学分野)
 - (3) 自己免疫性小脳失調症の治療
清水 文崇 (山口大学大学院医学系研究科臨床神経学)
 - (4) 本邦における自己免疫性小脳失調症の抗体測定体制の確立
矢口 裕章 (北海道大学神経内科)

<シンポジウム 14> 第8会場「103」 9:00～11:00

「遺伝性脳小血管病研究の新展開」

- 座長：猪原 匡史 (国立循環器病研究センター脳神経内科)
小野寺 理 (新潟大学脳研究所脳神経内科)
- (1) CADASIL 診断における皮膚生検の有用性
植田 明彦 (熊本大学大学院生命科学研究部脳神経内科学講座)
 - (2) 保険診療で遺伝学的検査が可能となった時代の遺伝性脳小血管病の診断
安藤昭一郎 (新潟大学医歯学総合病院脳神経内科)
 - (3) CADASIL の遺伝子診断から治療法開発へ
水田依久子 (京都府立医科大学大学院医学研究科脳神経内科学)
 - (4) CADREA : CADASIL Registry in East Asia
齊藤 聡 (国立循環器病研究センター脳神経内科)

<シンポジウム 15> 第2会場「国際会議室」 15:50～17:50

「ARIA の発症機序と制御への展望」

- 座長：伊井裕一郎 (三重大学医学部神経画像病態学)
富本 秀和 (三重大学大学院医学系研究科/済生会明和病院)
- (1) アミロイド関連画像異常 (ARIA) とその周辺病態
伊井裕一郎 (三重大学医学部神経画像病態学)
 - (2) 1型脳小血管病理と CAA・ARIA
薬師寺祐介 (関西医科大学医学部神経内科学講座)
 - (3) 脳アミロイド血管症の病態
坂井 健二 (上越総合病院神経内科)
 - (4) アミロイド関連画像異常 (ARIA) の病態と MRI 解析
工藤 興亮 (北海道大学大学院医学研究院画像診断学教室)
 - (5) アミロイド関連画像異常 (ARIA) 制御への将来展望
富本 秀和 (済生会明和病院, 三重大学大学院医学研究科)

<シンポジウム 16> 第3会場「201」 15:50～17:50

「リアルワールドエビデンスはどこまで薬事利用できているのか」

座長：三澤 園子（千葉大学大学院医学研究院脳神経内科学）

山野 嘉久（聖マリアンナ医科大学脳神経内科学）

- (1) RWEの活用の現場，海外の状況について 研究班からの報告や検討も含めて
中村 治雅（国立精神・神経医療研究センター）
- (2) 希少難病のドラッグラグ・ドラッグロスの解決に資する基盤を目指して～難病プラットフォームについて～
山野 嘉久（聖マリアンナ医科大学脳神経内科，聖マリアンナ医科大学難病治療研究センター）
- (3) 製薬企業における日本の RWD/RWE の薬事利用について
弘 新太郎（製薬協医療情報 DB 活用促進 TF/ ファイザー R&D（同））
- (4) 最近の薬事制度下での RWD/RWE 活用の話題
泉 和樹（医薬品医療機器総合機構）

<シンポジウム 17> 第6会場「303」 15:50～17:50

「病態修飾療法の現在と未来」

座長：岩田 淳（東京都健康長寿医療センター脳神経内科）

襲場 郁子（国立病院機構東名古屋病院脳神経内科）

- (1) 脊髄性筋萎縮症における疾患修飾治療の現在と未来
齋藤加代子（東京女子医科大学ゲノム診療科）
- (2) 筋萎縮性側索硬化症における病態修飾療法の現在と未来
漆谷 真（滋賀医科大学内科学講座脳神経内科）
- (3) アルツハイマー病の病態修飾療法の現在と未来
岩田 淳（東京都健康長寿医療センター）
- (4) パーキンソン病における病態修飾療法の現在と未来
長谷川隆文（仙台西多賀病院臨床研究部脳神経内科）

<シンポジウム 18> 第7会場「304」 15:50～17:50

「GBS・CIDP 2024UPDATE」

座長：海田 賢一（埼玉医科大学総合医療センター脳神経内科）

水地 智基（千葉大学大学院医学研究院脳神経内科学）

- (1) GBS・CIDP の疫学 UPDATE
水地 智基（千葉大学大学院医学研究院脳神経内科学）
- (2) GBS の診断と治療 UPDATE
桑原 基（近畿大学医学部脳神経内科）
- (3) 典型的 CIDP の診断と治療 UPDATE
古賀 道明（山口大学大学院医学系研究科保健学専攻）
- (4) CIDP バリエーションの診断と治療
国分 則人（獨協医科大学脳神経内科）
- (5) 自己免疫性ノドバチーの診断と治療 UPDATE
緒方 英紀（九州大学病院脳神経内科）

<教育講演 7> 第4会場「301」 9:00～9:40
「認知症予防を目指した多因子介入研究 (J-MINT) の成果と今後の展望」
座長: 浦上 克哉 (鳥取大学認知症予防学講座)
演者: 櫻井 孝 (国立長寿医療研究センター)

<教育講演 8> 第4会場「301」 9:40～10:20
「アミロイドβタンパク質病理の伝播とアルツハイマー病の治療戦略」
座長: 吉山 容正 (稲毛神経内科・メモリークリニック)
演者: 濱口 毅 (金沢医科大学脳神経内科学)

<教育講演 9> 第4会場「301」 10:20～11:00
「レビー小体病の幻覚: 病態と治療」
座長: 高橋 牧郎 (関西医科大学神経難病医学講座)
演者: 西尾 慶之 (大阪大学行動神経学・精神医学寄附講座)

<教育講演 10> 第4会場「301」 15:50～16:30
「aPD (進行性パーキンソン病) の治療戦略」
座長: 前田 哲也 (岩手医科大学脳神経内科・老年科)
演者: 西川 典子 (順天堂大学医学部神経学講座)

<教育講演 11> 第4会場「301」 16:30～17:10
「パーキンソン病の漢方治療」
座長: 西川 典子 (順天堂大学医学部神経学講座)
演者: 村松 慎一 (自治医科大学)

<マラソンレクチャー 7> 第5会場「302」 9:00～9:40
「特発性後天性全身性無汗症の診断と治療」
座長: 朝比奈正人 (金沢医科大学脳神経内科)
演者: 荒木 信之 (千葉大学地域医療教育学, 千葉大学脳神経内科)

<マラソンレクチャー 8> 第5会場「302」 9:40～10:20
「脳卒中薬物治療の最前線」
座長: 平野 照之 (杏林大学医学部脳卒中医学)
演者: 藤本 茂 (自治医科大学内科学講座神経内科学部門)

<マラソンレクチャー 9> 第5会場「302」 10:20～11:00
「ビタミン欠乏性神経疾患の診断と治療」
座長: 福武 敏夫 (亀田メディカルセンター (脳神経センター) 脳神経内科)
演者: 平賀 陽之 (千葉労災病院脳神経内科)

<マラソンレクチャー 10> 第5会場「302」 15:50～16:30
「アルツハイマー病疾患修飾治療に必要な知識」
座長: 磯部 紀子 (九州大学大学院医学研究院神経内科学)
演者: 小野賢二郎 (金沢大学医薬保健研究域脳神経内科学)

<マラソンレクチャー 11 > 第5会場「302」 16:30～17:10

「MS・NMOSS・MOGADの鑑別診断と治療」

座長：関口 縁 (JR 東京総合病院脳神経内科)

演者：磯部 紀子 (九州大学大学院医学研究院神経内科学)

<マラソンレクチャー 12 > 第5会場「302」 17:10～17:50

「Common diseaseとしての末梢神経疾患」

座長：鶴沢 顕之 (千葉大学大学院医学研究院脳神経内科学)

演者：関口 縁 (JR 東京総合病院脳神経内科)

<第3回医療ニーズ調査報告> 第4会場「301」 17:20～17:50

座長：鈴木 正彦 (東京慈恵会医科大学リハビリテーション医学講座)

演者：伊藤 瑞規 (藤田医科大学ばんだね病院脳神経内科)

<第20回日本神経疾患音楽療法研究会> 1F「105」 14:00～17:00

「認知症と音楽療法」

大会長：近藤 清彦 (相澤病院脳卒中・脳神経センター, 相澤東病院)

一般演題

「笑顔を引き出すための訪問診療 ～音楽療法を取り入れた試み～」

座長：近藤 清彦 (相澤病院脳卒中・脳神経センター, 相澤東病院)

演者：今井 尚志 (内幸町在宅クリニック)

道下 和美 (音楽療法士)

特別講演 I. 「NO MUSIC NO LIFE 認知症と向き合う人生に、音楽はその人らしさを歌い語る」

認知症の方々へのマンツーマン音楽療法の16年間を通して

座長：林 明人 (順天堂大学脳神経内科・リハビリテーション医学)

演者：飯塚三枝子 (京都認知症総合センタークリニック, 京都市京区辻医院 音楽療法士, 京都医療センター
脳神経センター 研究員, 臨床音楽協会 理事, フリーランス ヴァイオリン
ヴァイオラ奏者)

特別講演 II. 「音楽心理療法 (music - psychotherapy)」を超えて

～「あいだ」に生まれる音楽という視点から～

座長：吉井 文均 (東海大学名誉教授, 研水会 高根台病院)

演者：齋藤 考由 (五雲堂齋藤醫院, 日本臨床音楽療法学会 理事長)

<神経治療学会 臨床研究ワークショップアドバンス> 第8会場「103」 14:00～18:00

「リスクを知って一歩前をいく臨床研究を企画しよう」

ファシリテーター (予定)：小居 秀紀 (国立精神・神経医療研究センター)

鈴木 啓介 (国立長寿医療研究センター)

福田 真弓 (国立循環器病研究センター)

甲田 亨 (大阪大学医学部附属病院)

橋詰 淳 (名古屋大学大学院医学系研究科)

大庭 真梨 (国立精神・神経医療研究センター)

津野 良子 (国立精神・神経医療研究センター)

〔第3日 11月9日(土)〕

＜特別企画シンポジウム3 (PMDA・DIA ジョイントシンポジウム)＞

第1会場「コンベンションホールB」 13:30～15:30

「臨床開発に関わるステイクホルダーとの連携を深める」

座長：山本 晴子（国立循環器病研究センター）

中村 治雅（国立精神・神経医療研究センター病院臨床研究・教育研修部門）

- (1) アカデミアを飛び出すことで広がる世界：DIA Japan での学びと出会い
三澤 園子（千葉大学大学院医学研究院脳神経内科学）
- (2) DIA についてのご紹介と神経治療への期待 年会への招待
長尾 典明（日本たばこ産業（株）医薬事業部 GCP 監査室, DIA Japan Contents Committee,
第21回 DIA 日本年会 2024 副大会長）
- (3) 臨床開発推進のための neutral platform を介したステークホルダーの連携：PMDA での経験を踏まえて
宇山 佳明（医薬品医療機器総合機構）
- (4) DIA Japan における経験 ～脳神経内科医としての関わり～
鈴木 啓介（国立長寿医療研究センター先端医療開発推進センター）
- (5) DIA にはじめて参加して
狩野 修（東邦大学医学部内科学講座神経内科学分野）

＜シンポジウム19＞ 第1会場「コンベンションホールB」 9:00～11:00

「希望から現実へ：神経変性疾患の先制治療開発」

座長：関島 良樹（信州大学医学部脳神経内科, リウマチ・膠原病内科）

勝野 雅央（名古屋大学大学院医学系研究科神経内科学・臨床研究教育学）

- (1) 脊髄性筋萎縮症の発症前診断・治療
齋藤加代子（東京女子医科大学ゲノム診療科）
- (2) 筋萎縮性側索硬化症（ALS）に対する治療法開発と発症前治療への展開
和泉 唯信（徳島大学大学院薬学研究部臨床神経科学分野）
- (3) 遺伝性 ATTR アミロイドーシスの発症前遺伝子診断と治療
中村 勝哉（信州大学医学部附属病院遺伝子医療研究センター, 信州大学医学部脳神経内科, リウマチ・
膠原病内科）
- (4) 遺伝性アルツハイマー病に対する発症前治療：DIAN 研究
池内 健（新潟大学脳研究所生命科学リソース研究センター）
- (5) レビー小体病プロドローマル期の先制治療
平賀 経太（名古屋大学大学院医学系研究科神経内科学）

＜シンポジウム20＞ 第2会場「国際会議室」 9:00～11:00

「パーキンソン病関連疾患のバイオマーカー開発と次世代治療戦略の展望」

座長：渡辺 宏久（藤田医科大学医学部脳神経内科学）

春日 健作（新潟大学脳研究所生命科学リソース研究センター）

- (1) パーキンソン病関連疾患における体液バイオマーカー開発の現状と今後の展望
徳田 隆彦（量子科学技術研究開発機構量子医科学研究所脳機能イメージング研究センター）
- (2) パーキンソン病関連疾患のミスフォールドタンパクイメーjing
遠藤 浩信（量子科学技術研究開発機構量子医科学研究所脳機能イメージング研究センター）

- (3) パーキンソン病ゲノムからの病態解明・臨床応用と展望
佐竹 渉（東京大学大学院医学系研究科神経内科）
- (4) パーキンソン病における創薬開発の現状
渡辺 宏久（藤田医科大学医学部脳神経内科学）

<シンポジウム 21> 第3会場「201」 9:00～11:00

「世界の神経疾患コンソーシアムにおける日本のストラテジー」

座長：中村 治雅（国立精神・神経医療研究センター病院臨床研究・教育研修部門）
狩野 修（東邦大学医学部脳神経内科）

- (1) World Stroke Organization と Asia Pacific Stroke Organization への日本の貢献
平野 照之（杏林大学医学部脳卒中医学）
- (2) MS/NMOSD 領域における国際的コンソーシアムで何をすべきか—日本のプレゼンスを護るために
中原 仁（慶應義塾大学医学部神経内科）
- (3) 国際パーキンソン病・運動障害学会の活動
波田野 琢（順天堂大学医学部神経学講座）
- (4) 筋疾患領域における医薬品開発等に資する国際連携
中村 治雅（国立精神・神経医療研究センター）
- (5) 重症筋無力症：Japan MG registry とグローバル治験における日本の現状
鶴沢 顕之（千葉大学大学院医学研究院脳神経内科学）
- (6) 世界の ALS コンソーシアムの現状と我が国の関わり
熱田 直樹（愛知医科大学医学部内科学講座（神経内科））

<シンポジウム 22> 第6会場「303」 9:00～11:00

「GNE ミオパチー：基礎研究から治療法開発まで」

座長：青木 正志（東北大学大学院医学系研究科神経・感覚器病態学講座神経内科学分野）
西野 一三（国立精神・神経医療研究センター神経研究所疾病研究第一部）

- (1) シアル酸補充療法の臨床試験
鈴木 直輝（東北大学大学院医学系研究科臨床障害学）
- (2) 画像研究から学ぶ、診断とモニタリングのポイント、及び、治療法開発研究の最新動向
吉岡和香子（国立精神・神経医療研究センター神経研究所疾病研究第一部）
- (3) シアル酸補充療法の開発およびさらなる治療法をめざして
野口 悟（国立精神・神経医療研究センター神経研究所疾病研究第一部）

<シンポジウム 23> 第7会場「304」 9:00～11:00

「神経・筋疾患の新規治療標的候補としてのオートファジー」

座長：池中 建介（大阪大学大学院医学系研究科神経内科学講座）
長谷川隆文（国立病院機構仙台西多賀病院臨床研究部）

- (1) オートファジーによるリソソーム恒常性維持機構および神経・筋疾患との関連
中村 修平（奈良県立医科大学医学部医学生化学講座、奈良県立医科大学オートファジー・抗老化研究センター）
- (2) シヌクレイン凝集細胞間伝播におけるリソソームオートファジー防御機構について
池中 建介（大阪大学医学部神経内科）

- (3) 筋疾患におけるオートファジー
杉江 和馬 (奈良県立医科大学脳神経内科)
- (4) パーキンソン病に対するオートファジー調節治療について
齊木 臣二 (筑波大学医学医療系神経内科学)

<シンポジウム 24 > 第3会場「201」 13:30 ~ 15:30

「神経疾患に対する新薬承認のその後」

座長：水地 智基 (千葉大学脳神経内科学)

橋詰 淳 (名古屋大学大学院医学系研究科臨床研究教育学)

- (1) 球脊髄性筋萎縮症に対するリユープロレリン酢酸塩の薬事承認とその後
橋詰 淳 (名古屋大学大学院医学系研究科臨床研究教育学, 名古屋大学大学院医学系研究科神経内科学)
- (2) 脊髄性筋萎縮症の新たな医療フェーズ
佐橋健太郎 (名古屋大学神経内科学)
- (3) ATTR アミロイドーシスに対する新薬承認のその後
関島 良樹 (信州大学医学部脳神経内科, リウマチ・膠原病内科)
- (4) Crow-Fukase 症候群
水地 智基 (千葉大学大学院医学研究院脳神経内科学)
- (5) デュシェンヌ型筋ジストロフィーにおける新薬の有効性・安全性評価
小牧 宏文 (国立精神・神経医療研究センター)

<シンポジウム 25 > 第5会場「302」 13:30 ~ 15:30

「ガイドライン (標準的神経治療) restless leg 症候群」

座長：宮本 雅之 (獨協医科大学病院睡眠医療センター)

坪井 義夫 (つつみクリニック福岡パーキンソン病専門外来センター)

- (1) Restless legs syndrome の治療アルゴリズム
宮本 雅之 (獨協医科大学埼玉医療センター脳神経内科)
- (2) Restless legs syndrome の薬物療法
野村 哲志 (のむらニューロスリープクリニック)
- (3) 腎不全と RLS
小池 茂文 (豊橋メイツ睡眠クリニック)
- (4) RLS 診療ガイドライン エビデンスの少ない領域に対する GRADE アプローチ採用の試み
小島原典子 (静岡社会健康医学大学院大学)

<シンポジウム 26 > 第6会場「303」 13:30 ~ 15:30

「MG・NMOSD における生物学的製剤の使い分けについて考える」

座長：森 雅裕 (千葉大学大学院医学研究院脳神経内科学)

鶴沢 顕之 (千葉大学大学院医学研究院脳神経内科学)

- (1) NMOSD に対する生物学的製剤の使い分け
中島 一郎 (東北医科薬科大学医学部脳神経内科)
- (2) NMOSD に対する生物学的製剤・ステロイドの安全性を徹底的に比較する
田原 将行 (国立病院機構宇多野病院)
- (3) NMOSD における生物学的製剤とステロイドのリスク・ベネフィット
荒木 学 (河北総合病院脳神経内科, 埼玉医科大学総合医療センター脳神経内科)

- (4) 全身型 MG における抗補体薬と治療適応となりうる患者像
中根 俊成 (富山大学脳神経内科)
- (5) 全身型 MG における FcRn 阻害薬と治療適応となりうる患者像
長根百合子 (総合花巻病院脳神経内科)
- (6) 全身型 MG における B 細胞標的療法
安田 真人 (千葉大学大学院医学研究院脳神経内科学)

<シンポジウム 27> 第7会場「304」 13:30～15:30

「治験に向けた ALS 早期診断法・診断基準」

座長：澁谷 和幹 (千葉大学大学院医学研究院脳神経内科学)

清水 俊夫 (東京都立神経病院脳神経内科)

- (1) ALS 診断基準とその問題点
澁谷 和幹 (千葉大学大学院医学研究院脳神経内科学)
- (2) ALS 診断・層別化のための体液バイオマーカー
徳田 隆彦 (量子科学技術研究開発機構量子医科学研究所脳機能イメージング研究センター)
- (3) 核医学検査は ALS 早期診断に寄与し得るか？
島田 斉 (新潟大学大学院研究開発機構脳機能研究センター臨床機能神経学分野, 量子科学技術研究開発機構量子医科学研究所脳機能イメージング研究センター, 千葉大学大学院医学研究院脳神経内科学)
- (4) 神経筋超音波検査を用いた ALS 早期診断
能登 祐一 (京都府立医科大学大学院医学研究科脳神経内科学)
- (5) 経頭蓋磁気刺激検査を用いた ALS 早期診断
東原 真奈 (東京都健康長寿医療センター脳神経内科)

<教育講演 12> 第4会場「301」 9:00～9:40

「自己免疫介在性脳炎・脳症の最前線」

座長：中根 俊成 (富山大学脳神経内科)

演者：河内 泉 (新潟大学大学院医歯学総合研究科医学教育センター, 新潟大学脳研究所脳神経内科, 新潟大学医歯学総合病院脳神経内科)

<教育講演 13> 第4会場「301」 9:40～10:20

「免疫異常による自律神経障害」

座長：河内 泉 (新潟大学大学院医歯学総合研究科医学教育センター・脳研究所脳神経内科)

演者：中根 俊成 (富山大学脳神経内科)

<教育講演 14> 第4会場「301」 10:20～11:00

「皮膚所見を伴わない炎症性筋疾患 Up to date」

座長：山下 賢 (国際医療福祉大学成田病院脳神経内科)

演者：清水 潤 (東京工科大学医療保健学部)

<教育講演 15> 第4会場「301」 13:30～14:10

「前頭側頭葉変性症の非薬物療法」

座長：和泉 唯信 (徳島大学大学院歯薬学研究部臨床神経科学分野)

演者：小林 良太 (山形大学医学部精神医学講座)

<メディカルスタッフレクチャー 1> 第5会場「302」 9:00～9:40

「神経内科医とメディカルスタッフの連携について考える」

座長：森 雅裕（千葉大学大学院医学研究院脳神経内科学）

演者：荻野美恵子（国際医療福祉大学医学部医学教育統括センター・脳神経内科学）

<メディカルスタッフレクチャー 2> 第5会場「302」 9:40～10:20

「ブレインナーシング～脳神経疾患の看護」

座長：百田 武司（日本赤十字広島看護大学）

(1) 在宅から病院，病院から在宅へ循環型看護を考えるー脳卒中患者の在宅生活から学ぶー

杉本 智波（南福岡脳神経外科病院）

(2) 脳神経疾患を抱える人と家族の Well-being を支える～看護師の役割と実践～

小林由紀恵（聖路加国際大学大学院看護学研究科ニューロサイエンス看護学）

<メディカルスタッフレクチャー 3> 第5会場「302」 10:20～11:00

「パーキンソン病脳深部刺激療法における多職種連携」

座長：澁谷 和幹（千葉大学脳神経内科）

演者：山本 達也（千葉県立保健医療大学健康科学部リハビリテーション学科，千葉大学大学院医学研究院脳神経内科学）

<映画上映会> 「105」 9:00～11:15

「いまダンスをするのは誰だ？」

<映画上映会> 「105」 11:40～13:40

「NO LIMIT, YOUR LIFE」

<市民公開講座> TKP 東京ベイ幕張ホール 13:40～15:40

「その物忘れは年のせい？～認知症の早期発見と予防のこつ～」

総合司会：富本 秀和（済生会明和病院／三重大学大学院）

講師：繁田 雅弘（栄樹庵診療所）

江川 斉宏（厚生労働省老健局認知症施策・地域介護推進課）

岩田 淳（東京都健康長寿医療センター）

小柳 勇太（経済産業省ヘルスケア産業課）

<市民公開講座> 第2会場「国際会議室」 14:10～15:40

「病を持つ方にとって本当に必要なこと：市民患者参画についての目線合わせ」

司会：鶴沼 敦（日本医療研究開発機構難治性疾患実用化研究事業）

三澤 園子（千葉大学大学院医学研究院脳神経内科学）

講師：武藤 将胤（WITH ALS）

鶴沼 敦（日本医療研究開発機構難治性疾患実用化研究事業）

三澤 園子（千葉大学大学院医学研究院脳神経内科学）

猪野毛朝飛（千葉大学大学院医学研究院脳神経内科学）